

## 第2回玉庭小学校学区再編検討委員会会議録

- 1 期 日 平成27年9月17日(木) 19時～20時32分  
2 場 所 玉庭地区交流センター  
3 出席委員 吉村委員長、鈴木副委員長、佐藤委員、大滝委員、貝沼委員、藤田委員、金子委員、大木委員、長谷川委員、山口委員、中川委員、中田委員

- 4 欠席委員 山家委員  
5 事務局 小野教育長、緒形課長、有坂主幹

### 6 会議経過

緒形課長の進行で進められ、吉村委員長のあいさつにより開会された。

### 7 協 議

吉村委員長が議長となり、次の協議を行った。

#### (1) 統廃合の必要性について

はじめに、事務局から前回の資料に加え、次の資料を配布し説明した。

- ① 山形県内市町村ごとの小学校数の推移(平成27年度確定版)
- ② 小学校児童数・学級数推移予想表(平成27年5月1日現在)
- ③ 地域活性化の拠点として学校を活用した地域づくり事例調査(総務省発行)
- ④ 白鷹町鷹山小学校の再編状況資料
- ⑤ 川西町立小学校再編整備計画の概要(玉庭小)

資料についての説明後、次の質疑があった。

**委員:** 学級編制は、いつの時点での児童数により決定するのか。

**事務局:** 1月末での児童数が原則となる。ただし、3月末までの間の児童数の増減も考慮することとなる。

次に、前回の委員会(7/16)から約2月が経過し、様々な場面で意見交換した状況も想定されることから、各委員の考えを述べてもらうこととした。

**議長:** 現在交流センターにおいて地区計画の見直しを行っている。地域行事の中で小学校、児童の役割は非常に大きいと感じている。児童は行事の中で様々な取り組み(発表など)を行い、地区民は、その様子を見ながら、子供たちのがんばりを感じ、地区で子供たちを見守っていかなければならないと考えている。

地域づくりには、学校、子どもたちがいるということは、重要な事であり、今回の学区再編を検討するに当たっては、地区民の意向をどのように集約していくかが大きな課題と考えている。児童数だけで判断できるものではないのではないか。

PTAなどでは、何か話をする機会は無かったか。

**委員：**前回の検討委員会以降PTAの会合等無く、話をする機会が無かった。  
何か機会があれば、話をしなければならないと考えている。

**議長：**合意形成として意向調査など考えなければならないか。

**委員：**前回の検討委員会での資料を見て、再編整備と地域づくりに関して、「統合後の空き校舎の有効活用や若者の定住施策など、地域が活性化していく総合的な地域振興策を全町的に取り組む必要があります。」という表現がよく分からない。むしろ、この部分を明確に示してほしいと感じた。

教育委員会で示す内容ではないので、町として明示してほしい。「取り組む必要があります。」では、判断できない。この部分が明示されれば、議論も進めやすいのではないか。

学校は、1人でも成り立つのではないか。学校を閉鎖しないで、休校とすることも考えられるのではないか。

**事務局：**現在、来年度からの次期総合計画（未来ビジョン）を策定中であり、人口減少対策というのは大きな柱になると考えられる。

前回の委員会で「人口ビジョン（案）」について説明したところだが、様々な施策を実施したとしても人口減少は進むことが予想されており、町としては、その減少数をいかに抑えるか考えているところである。

町は、現在子育て支援としての中学生までの医療費の無料化、若者定住対策等行っているところだが、次期総合計画においても子育て支援、若者定住対策等を行いながら、また、地区計画と連動した施策を展開しながら進めていかなければならないということが、「取り組む必要があります。」という表現となっている。

**委員：**そこが、矛盾と感じている。総合計画で様々な施策を展開し、住民を減らさないとしながら、学校児童数は減る見込みだから再編を検討するという事は相反するのではないか。

**委員：**これまで3年間ほどの間に地区から子どもと共に転出していった家庭もある。その理由のひとつに児童数が減り、学校が無くなるのではないかと不安感もあったのではないかと考えている。

町で学校は残すという方針を明確に打ち出せば、そういった不安は無くなり、地区に留まると考え方もあるのではないか。

**議長：**保護者にも先が見えないという不安があるのではないか。保護者の方の意見はどうか。

**委員：**人数だけ見れば、適正規模ではないと思う。ただし、様々な方の意見を聞いて、地区の事を考えると気持ちぐらぐら。若い世代の話の中で、「学校が無くなるようだ。」という話が出ると、定住ということも考えなくなる。若い人が安心して住むということを考えると学校が無くなるというのはマイナスである。

複式学級は良いと思うが、集団活動が乏しいと感じている。

どちらで進むべきとの考えがうまくまとまらない。

**議長**：学校が無くなる。との意見が一人歩きしているような気がする。様々な意見をお聞きしたい。

**委員**：自分も先の委員会から他の方と話をする機会があまり無かったのだが、ある方からは、「統合するなら早く統合してほしい。」、またある方からは「残せるのなら残してほしい。」と話をされたときがあった。

直接関係無い話であるが、朴沢は玉庭地区だが、小松小学校に通学している。どのような事でそうなったのか疑問に感じており、朴沢の子どもたちが玉庭小学校に通学すれば、児童数は一定規模になるのではないか。

**委員**：朴沢小学校が廃止されたとき、小松小学校校舎の建替えの話があり、統合との条件で整備ができるようになったことにより、朴沢小学校の子どもたちは、小松小学校に通学することとなった。

地区の行事と小学校区が違っており、違和感が生じている地区民の声を聞いたことがある。

**委員**：朴沢の方に小松小と玉庭小どちらに入りたいかと聞いたら、どの様に答えるのだろうと感じた。

前回の委員会以降、他の方と話をした際、現中学生は、玉庭中でも良かったかなとの意見を聞いた。また、保護者からは集団で活動するのであれば大人数の学校が良いと言っていた。その中には、高校に行けば大人数の中で過ごさなければならぬので、早いうちが良いとの事であった。

**委員**：私も大勢の方から話を聞いたというわけでは無いが、2人の方から聞いた話では、1人は「統合するか、どうかではなく、統合しなければならなくなったのだろう。」との意見であった。また、もう1人（40歳代玉庭在住）は「自分が小学生、中学生のときは、学年12～13人の中で過ごし、高校でいきなり大人数の中に入るのは大変だった。その当時は、もっと早く統合すべきだった。と感じていたが、現在は中学校で大人数となるので、小学校は少人数でも良いのかな。」との意見であった。

私は、小学校の授業で自分の部落の中の神社について調べるといような機会があり、自分の住んでいるところに愛着を感じることができた。統合してしまったとき、自分の母校、郷土という意識は薄れるのではないか。

**委員**：中学校統合の検証の話となるが、通学に時間がかかる、バスに乗っている時間が長いと感じており、小学生では大変だろうと思う。

また、中学校の先生方は小規模校からの生徒に非常に気を配っていただいていると感じている。

近くの学校だからこそ、地区の人たちも学校に行き、子どもたちを見守ることができていると思う。

子どもたちを地域で育てられれば良いと考える。

**委員**：町内小学校全てコミュニティ・スクールが導入された。地域との関わり

が重要となり、各小学校の独自性が出てきたと感じている。それが、統合してしまうと失われてしまうのではないか。

休校等の対応できないか。また、分校として、例えば高学年は他の小学校へ通学、低学年は地元の分校などの対応はできないか。

また、人口減少対策は、国、県、町で行っているが、実際に減ってしまった地域への手立てというものが少ないような気がする。

**事務局：**休校、分校は、制度上は可能である。ただし、子どもの教育環境は適正にしなければならない。分校は適正ではないと考えている。では、適正ではないとはどういう事かということ、完全複式学級では、事務職、養護教諭が配置されない、分校では、校長、教頭、養護教諭が配置されないなどの場合が生じる。町単独で配置できるものではないため、学校運営上にも大きな支障が生ずることが予想される。

**委員：**私は、小規模校のメリットを重要視し、残す方針と考えている。いずれ統合しなければならないとしても、もっと慎重に考えるべきである。

**委員：**非常に難しい課題である。住宅のチラシ等見ると、通学学校までの距離など記載されている。家を建てる、購入する際学校が近くにあるかどうか判断基準の一つであることの現れであることから、定住という観点からは不利になるのではないか。ただし、町で（統合について）決断されれば仕方が無いと思う。

もしも、統合となったとき、通学時間はどれ位になるのか。小学生が対応できるのか。

**委員：**8月に開催された町長とのふれあいトークの中でも人口減少対策が大きなテーマであった。その中で、町長は「学校が無くなると、その地域に人が住まなくなる。」との話があった。

現在町では、第5次総合計画を策定中であり、その作業と同時並行でこの委員会を行っているところだが、総合計画が策定されてから、委員会開催で良かったのではないかと感じている。町の方向性が示されてからの協議であれば、議論しやすかったのではないか。

地元の人は無くしたくない。との考えの人が多いと思う。私は、統合しない旨の気持ちは何回協議しても変わらない。

保護者の考えを聞いて、この委員会に出してほしい。

**議長：**小学校の統合は決定したものではなく、この委員会が検討していくものであるので、様々な意見をお聞きしながら決定していくということを地域の皆さんにも知らせていく必要があると考える。

様々な会合に、私たち委員会が足を運び直接意見を聞く機会も設定しなければならないのではないか。

他の学校の検討委員会での状況はどうか。

**事務局：**他の検討委員会では、各委員がそれぞれの立場で様々な方の意見を聞

き、それを次の委員会に持ち寄るという手法を取っている。

座談会等を行っても、本音が聞けない。集まらないなどが考えられるとの事であった。

委員：町で座談会等行っても集まらないかもしれないが、この委員会で行うとすれば、もう少し広がりが出て集まるのではないか。

委員：PTAが中心となって集まってもらうのはどうか。

議長：PTAで集まる機会はないか。

委員：予定はない。

委員：昨年、一昨年と保護者対象の懇談会があったが、3人位しか集まらないということがあり、おそらくそれ程集まらないと考える。

委員：PTAが集まる機会については、小学校とも相談してみる。

議長：何とか保護者の方々の意見を聞く事ができる機会を設定したいと考える。直接話をするということは非常に重要と思う。

今後事務局と調整しながら、次回の検討委員会までの間に意見を聞く機会を設定する。

## (2) その他

次回の委員会については、11月下旬から12月上旬までの間で、委員長と事務局で期日設定をすることとした。（委員の勤務割の関係上11月10日までに日程決定することとした。）

閉会（20時32分）